

住宅と健康との関係
を考えるシンポジウム

住まいと健康考える

松山 建築や医療関係者シンポ

5/26 愛媛新聞



住宅と健康の関連調査について
意見交換したシンポジウム

「健康と住まい」が24
日、松山市道後町2丁
目のひめぎんホールで
あり、愛媛大の研究者

らが体に優しい住宅の
普及に向け、建築や医
療、大学の関係者が連
携する重要性などを話
し合った。

建築関係者や医師な
どでつくるえひめ健康
・省エネ住宅推進協議
会主催。住宅メーカー
や医療関係者ら約12
0人が参加した。

慶応大理工学部の伊
香賀俊治教授が「スマ
ートウェルネス住宅の
すすめ」と題して基調
講演。四国など温暖な

地域の冬場の死亡率が
北海道よりも高いのは
「断熱性能が低い住宅
が多いため」と分析。
室温の低下で血圧が上
昇して心筋梗塞や脳卒
中を招いている可能性
があるとした。

パネルディスカッシ
ョンでは、久野梧郎県
医師会長らパネリスト
4人が住宅環境の健康
影響調査の必要性を話
し合った。住環境の改
善などに詳しい愛媛大
教育学部の曲田清維教
授は「愛媛大には地域
医療に熱心な医師もお
り、調査に協力してい
きたい」と述べた。
(桑原大輔)